

学校の応援団

奈良教弘NEWS

株式会社奈良教弘
奈良市二条大路南
1-2-11

学校応援キャンペーン贈呈式

今年度奈良県下すべての公立学校園に応募いただき応募率100%を達成し全国一位となり学校賞も昨年の5校から19校に増やすことができた。

来年度の事業実施もすでに決定しており、来年度はすべての学校園に加えて、すべての管理職・事務長・事務職員の皆様からの応募を目指し、さらに学校賞を増やしたいと考える。

奈良教弘役員・ジブラルタ生命各営業所長・学校担当ライフプラン・コンサルタントが学校賞をお届けし、全職員が見守るなか贈呈式をおこなった。すべての先生方の笑顔が印象的であった。学校賞当選校・贈呈式の様子を紹介する。

高圧洗浄機	大容量ポータブル電源	冷暖スポットエアコン	ワンタッチタイプテント
奈良市立伏見こども園・奈良市立左京小学校・奈良市立田原小中学校・奈良市立済美小学校・桜井市立大福小学校・広陵町立広陵東小学校・天理市立南中学校・奈良県立香芝高等学校・奈良県立宇陀高等学校・奈良県立西養護学校・奈良県立宇陀高等学校・川上村立わかみ源流学園・上北山村立やまゆり学園	大和高田市立高田商業高等学校	桜井市立大三輪中学校	田原本町立田原本中学校 橿原市立大成中学校



香芝高校



済美小学校



王寺北義務教育学校



広陵東小学校



かわかみ源流学園



奈良東養護学校



左京小学校



伏見子ども園



天理南中学校



田原本中学校



宇陀高校



田原小中学校

十二月に贈呈式を実施した学校は、次回号にて紹介する。



やまゆり学園



奈良西養護学校



大成中学校

*公益財団法人日本教育公務員弘済会の教育振興事業（奨学金事業・教育助成金事業・教育文化事業）及び福祉事業は、教弘保険の契約者配当金により運営されており、日本教育界に貢献しています。

中学生作文コンクール 優秀賞!!

公益財団法人生命保険文化センターでは、全国の中学生を対象に、生命保険の役割などについての理解を深めるため作文コンクールを実施している。文部科学省、金融庁、全日本中学校長会が後援し、(一社)生命保険協会の協賛を得て毎年実施、今年度で六十二回目を迎え26241名の応募があった。全国で5名の優秀賞に奈良市立平城中学校2年の大久保貴織さんの作文が選ばれた。

「命のお守り」

十四歳を迎える誕生日の数日前、私は生命保険に加入しました。父に連れられて近所にある生命保険の窓口へ出向き手続きを済ませました。私はそれまで生命保険がどういふものなのか、本当に必要なのかさえよくわかっていなかったのですが、加入手続きをきっかけに生命保険の大切さを知りました。

そもそも私が生命保険に加入する事になったきっかけは、父からの提案でした。

父は病院で勤務しておりケガや病気の患者さんと接することは日常茶飯事です。その中で父は会計業務も担っているのが患者さんから医療費を徴収します。一時的な通院にかかる医療費、長期入院に掛かる医療費等、少額なものから高額なものまで様々あるそうです。

ある日、体調不良で救急搬送されてきた中学生がそのまま入院になり検査の結果大きな病気が判明したそうです。その親御さんの気持ちを察するに余りあるとの事でした。その事があってから父はもし私と弟が入院や手術をしたらどれくらい費用が実際には掛かるのか、生活がどのように変わるのかというような話を母としていました。

しかし、奈良市では医療費助成制度があるので万一治療費が高額でもそこまで困る事があるのだろうかという疑問に思ったので父に聞いてみました。

すると、病気によっては保険が適用されない治療方法や治療薬を使う場合があり、それをしないと命が助からない事もあると語気を強めた答えが返って

きました。それに万が一そのような病気になり入院が長期間にわたった場合、勤めに出ている父と母は仕事を休む事も増え収入が減る事になると。そしてそれは医療費の助成ではまかなえない部分であり、それをカバーしていくのが生命保険なのだ知らされました。

また奈良市の医療費助成制度の対象者は高校生までです。私の対象期間も数年後に終了してしまいます。

そのような事もあり、父は母と相談して私と弟の生命保険の加入を決めたのでした。

生命保険には様々なプランの商品があり、保障内容を手厚くすればそれに比例するように掛け金も高くなります。父は一生涯において保障が続く内容のプランを選んでくれました。加入するタイミングは年齢が若ければ若いほど少しでも掛け金が安く済むそうです。だから誕生日を迎えるぎりぎり手前で手続きをした事にも納得できました。

手続きが終わり窓口から帰る時、なんとも言えない安心感がありました。目に見えて何かが変わったわけではありませんが何か大きなものに守られているような感じがしました。

父は、

「将来もって大人になったら保障内容もその時の自分に見合った内容に変更したらいいよ。まあ保険を使う事なく健康なままが一番いいんやけど、これから生きていく為のお守りやと思っいたらいいよ。あつ、ほんでゆくゆくは自分で掛け金払ってな(笑)」と意地悪そうに笑いながら私に話しかけました。

普段健康に生活している中ではピンとこないケガや病気ですが、いつどこで自分自身に起こるかわかりません。病気にならないように規則正しい生活を心がけるのは勿論の事です。しかし、もしそうやってしまった時少しでも治療費や生活費として手助けをしてくれる「命のお守り」として生命保険はとても大切な心強い価値のあるものなんだなと思いました。命のお守りを用意してくれた父と母に感謝しつつ、でもこのお守りを使う事なく元気に生活していけたらいいなと思いました。

出前講座 「金融教育」

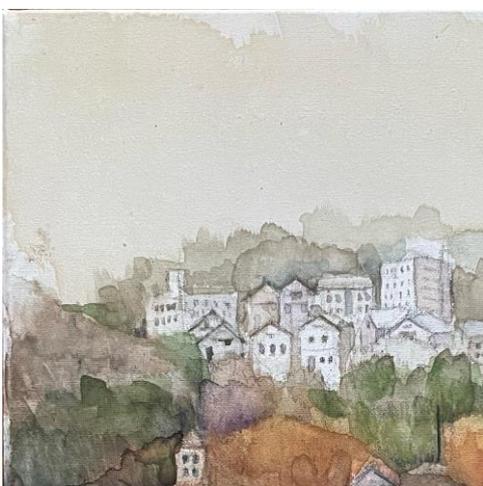
十一月一日(金)奈良市立京西中学校(千葉 暁校長)に出向き、三年生(四学級一五六名)に金融教育の出前講座を開催。ジブラルタ生命奈良支社の四名の講師が各学級で金融に関する情報を提供した。

「ライフプランとお金、一八歳(成人)からできる契約のルール、犯罪トラブル等、興味をひく話が盛り込まれていて、日頃お金のことをあまり深く考えてない多くの生徒たちにとって自分とお金について考える良い機会になった。」

「難しいと思ったところもあったが、働くことで得られるお金の意味、お金との向き合い方、怖さ(詐欺や犯罪)を学ぶことができました。一方通行の授業ではなく、講師の方と生徒のやり取りがあつて盛り上がる授業になっていて、よかったです。」という感想やグループワークの展開や具体的事例の紹介などの工夫改善などの提案も頂き、双方にとって有意義であった。



奈良百景



北葛城郡王寺町元町です。大和川のすぐ南側の片岡山には、片岡神社がありましたが今では元宮が残されています。(大山浩史)